

和歌山県日高郡美浜町

アメリカ村の観光コンテンツの発掘及び情報発信



【活動の基本情報】

参加学生数：15名（1年生：5名、2年生：10名）

活動期間：2020年5月～2023年1月

担当教員：東悦子

1. 活動実施の経緯

2021年に引き続き、美浜町で活動を実施した。前年度からの継続が8名、新規参加者7名の計15名で、2021年の活動を継続・発展させつつ、新たなイベントを企画した。

2. 活動の内容

上記のテーマのもと、「コンテンツ班」と「SNS班」に分かれて活動に取り組んだ。日頃は学生達が主体的に班ミーティングを開き、企画を検討した。

本年度の特筆すべき企画は「和大学生による夏まつり」であった。コンテンツ班は、地域の人々にアメリカ村をもっと知ってもらうこと、特に子供達に地域の魅力や歴史を伝えることが重要と考えた。その企画にSNS班も協力し、夏まつりの要素を入れながら、ウォークラリー等を実施した。ウォークラリーでは地域の見所にまつわるクイズを解きながら歴史や観光資源に触れる、楽しみながら学べる内容であった。参加した保護者からは「アメリカ村について初めて知ることがあった」「子供にとって夏の楽しい思い出となった」「久しぶりに子供が集まって賑わいが戻った」等の声を聞くことができた。

何より意義があったのは、企画、広報、申込者への連絡、安全への配慮、当日の運営、子供達との接し方等、様々な点について熟考し、準備、対応しなければならず、学生が協力し、役割を無事に果たせたことである。終了後、学生達は安堵感と達成感に満ちていた。

最後に、SNS班は夏まつりや美浜町の魅力をInstagramで発信してきたが、リールの視聴回数が4,000回を超えたことも大きな成果であった。

3. 活動を通じて

前年度からの継続メンバーと新規メンバーが交わり、学生達が主体的に活動に取り組むことができた。活動の後半には今後の具体的な取り組みも定め、次年度の活動への意欲も見受けられた。LPPの活動を通して学生達の成長ぶりが感じられた。

一年間、学生の活動を見守り支えてくださった美浜町役場の田中敦之様はじめ役場の皆様、また、いつも温かく迎えてくださったカナダミュージアム館長の三尾たかえ様やフタツの皆様に心より感謝申し上げます。

4. 成果ポスター



美浜町について

美浜町三尾地区は明治時代以降、多くの住民が漁場を求め、カナダへ移住した移民の町です。カナダから帰国した人達が洋風の建物を建てたり、西洋風の生活様式を取り入れていました。三尾地区の異国情緒あふれる姿から、次第に「アメリカ村」と呼ばれるようになりました。

活動内容

●コンテンツ班

目標：アメリカ村の魅力、歴史を知ってもらう

『和大生による夏祭り』（昨年8月21日開催）
対象：小学生（参加人数約30名）

野外活動：ウォークラリー、的あて、
ヨーヨー釣り、玉入れ

屋内活動：クイズ、ビンゴゲーム
→どちらも美浜町の魅力や歴史を内容に含む

参加者のコメント

- ・コロナ禍でどこにも行けなかったが思い出になった
- ・大人も知らないアメリカ村のことを知ることができた

●SNS班

目標：自分たちが体験したことをSNSを使って発信する

煙樹ヶ浜でのSUP体験（昨年8月20日体験）

SUP体験や夏祭りの様子をInstagramで発信

↓
リールの視聴回数は4000回越え

↓
美浜町の魅力を全世界に発信できた

皆さんも美浜町を訪れて、Instagramで発信してください



来年度に向けて

コンテンツ班

①日御埼灯台のパンフレット作成

- ・現状灯台のパンフレットがない

- ・海が一望できたり夕陽が見れたり観光資源になりうる

②イベント（カフェ）

- ・今年度は子供たち向けのイベントをしたので、次は大人向けのイベントも開催したい

SNS班

投稿内容の質強化

- ・より多くの人にリーチするようなデザインや写真、文章を作成

合同報告会 当日の様子

和歌山県日高郡美浜町

テーマ：アメリカ村の観光コンテンツの発掘及び情報発信

美浜町アメリカ村 LPP の発表では、コンテンツ班が中心となり、SNS 班に協力して実施した、昨年 8 月 21 日開催の、地元の小学生を対象として行ったイベントについての報告並びに SNS 班が美浜町の魅力発信のために実施した、Instagram を用いて美浜町の風景をリール動画で発信したことについて発表させていただきました。



毎週会議を重ねてイベントの計画をしていた点や、アメリカ村の情報発信についてなど、多くの方にお褒めの感想をいただき、非常によい発表機会であったと感じます。以下、コメントシートにあった質問への回答を記入します。

Q. 「どうしたら地域を知ってもらえるか（住民に）。どうやってインスタで発信したら、4,000 回数も再生されたのか？工夫点は何があったのか？」

A. 今年度の企画では、子ども向けのイベントにすることを意識しました。子ども向けのイベントを実施するにあたり、安全の観点から保護者の同伴を義務付けました。これにより、子どもだけではなく、保護者(大人の方々)にも知ってもらえると考えました。また、Instagram での発信はいわゆる「映え」意識したことで 4000 回も再生されたのではないかと考えます。

Q. 「なぜ 2 つの班に分かれたのですか。お互いに連携して活動しているのですか。」

A. 情報発信とコンテンツを企画、発掘を同時並行で行うと、負担になると考えたからです。現状では連携が出来ていないので、来年度以降、協働して活動していきたいです。